



2020年12月20日

Vol.166

小平井戸の会 News

“世界で唯一無二の合気公園”に井戸を

—住民と合気道場門人で新たな公園作り—

今年最後のニュースは、上水南町2丁目に建設予定の「合気公園（仮称）」の紹介です。この地は、有名な大東流合気武術道場のあった跡地です。道場主宰の佐川氏は『深淵の色は 佐川幸義伝』（実業之日本社）（写真1）に登場する天才武術家です。著者は直木賞作家の津本陽。私も高名な門人の木村達雄先生から本を頂き読ませてもらいましたが、とても感銘を受けました。

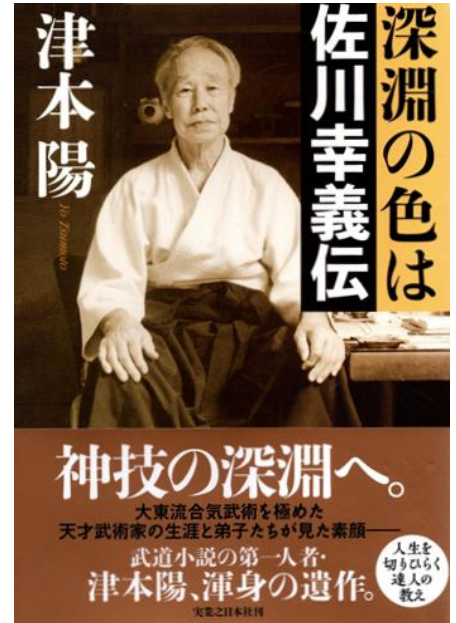
昭和30年、幸義氏は郷里北海道から小平に移住され、この地に道場を構えました。亡くなる95歳まで全国から多くの門人を迎えました。その後、ご子息の敬行氏が家督を継がれましたが、「自宅の跡地を笑顔で過ごせる公園にし『合気公園』の名称で、将来、合気の聖地として親しまれる場所になってほしい」と遺言を残され、平成28年、土地約1,300㎡と、現金約3千万円を小平市に寄附しました。跡地には寒山寺から取り寄せたという大きな石燈籠のある日本庭園（写真2）や、井戸もありました。後でも述べますが、市の判断で、すでに多くの樹木は伐採され、井戸も埋められてしまいました。

今年、住民と道場門人が中心となり「小平市民の声で世界で唯一無二の合気公園をつくろう！」を合言葉に「旧佐川邸の公園化を考える会」が結成されました。現在、会員は市民27人、議員8人、門人8人です。私も安竹さんに誘われ名を連ねています。彼は「市内の歴史的人物を発掘し、まちに物語をもたせよう」と発信している議員です。物語性のない“平凡なまち小平”から脱却するためにも、とてもよい活動と思います。

一方、市はといえば、住民の声を無視し、残された貴重な樹木の伐採を強行し、土地の1/3を売却しようとしています。これでは遺産を寄附された敬行氏の意に反したどこにでもある平凡な公園になってしまいそうです。住民は防災公園として新たな井戸を作りたいと求めています。市はその必要性を認めていません。

先日、私は竹井議員と一緒に、市の担当者と公園の井戸について話し合いを持ちました。その場で「小平井戸の会」がクラウドファンディングで「合気公園」に井戸を寄附したいと申し入れましたが、管理が大変なので受けられないと断られました。これには思わず耳を疑ってしまいました。

このように市は「公園に井戸は作らない、作らせない」と頑かたくなに言い続けています。平成28年9月定例会で竹井議員の防災用井戸の質問に対して、小林市長が「費用対効果に課題がある」と発言して以来、この考えは一貫して変わっていません。今年最後のニュースはグチで終わってしまいましたが、来年こそは小平市に変化が起きることを期待したいと思います。それでは皆さまコロナを乗り越え、よいお年をお迎えください。（記：金子尚史）



（写真）津本陽 著『佐川幸義伝』



（写真）道場跡地に残された貴重な日本庭園